

# あすの調布 9月号



# 例会報告II

## 6月例会

わんぱく相撲東京都大会を終えて

去る、6月27日にわんぱく相撲東京都大会を味の素スタジアムカルピス広場にて無事に終了することができました。携わっていただきました多くの皆様に心より感謝申し上げます。

(社)調布青年会議所として、近年行われていませんでした各地青年会議所の皆様と関わりを持ちながら行う事業ということ、また私自身初めて調布青年会議所メンバー以外の方々と関わりながらの運営ということの不慣れな点が数多く、実行委員会メンバーと切磋琢磨しながら準備をさせていただきました。

当日は、23区12市で行われた地区大会を勝ち抜いてきた総勢105名の子どもたちが全国大会への出場権を賭け真剣勝負を繰り広げてくれました。取り組みに勝った子どもたちの笑顔・負けた子どもたちの悔し涙と、多くの感動的な場面を目の当たりにすることができた大会でした。

「調布」に誇りを持って訪れる参加者にPRをしていきたい



そんな思いをもって今大会の運営準備を行ってまいりました。調布の全国に誇るランドマーク「味の素スタジアム」その会場で我々メンバーが大会をすばらしいものにしてようと一つになり、会場に訪れたすべての人におもてなしの心をもって接してもらえた。それが何より40周年を迎えた(社)調布青年会議所の誇りなのではないかと思えます。

最後にありますが、わんぱく相撲東京都大会に携わっていただいた多くの皆様本当にありがとうございます。次は、周年式典です。メンバー全員で感謝の心でおもてなししましょう。



## 7月例会

調布青年会議所並びに同シニアクラブ合同納涼例会☆和になつて語るう40年間の和☆を開催させていただきました。



り又、ありきたりな場所ではダメと言う事で、開催場所にふさわしい所を探すのに堀委員長始め委員会メンバーと頭を悩ませましたが、シニアクラブ会長でもあります原島敬之先輩が経営されており、いつも元気な活力のある原島会長のパワーをメンバーに注入できれば最高だと思ひ原島先輩をお願いしたところ快く承知して頂けましたので、開催地にさせて頂きました。例会内容につきましては、株式会社ホッピーの社長石渡美奈様を始め社員の方々にお越し頂き、石渡



社長にはホッピーの事業展開や経営方針等を語って頂き、社員の方々にはアトラクションでおいしいホッピーの飲み方やホッピーブースをご利用頂きホッピーを参加者に振る舞って頂いたり大変なご協力を頂きました。又、新入会員によるホッピーちよい足しランキングなるモノを開催し例会を盛り上げました。

今回、新入会員メンバーは、初めての担当例会と言う事で大変な面がたくさんあったと思いますが、皆積極的に準備に参加してくれて、予定より多くの参加者の動員に成功したり、設営・アトラクション等も自ら意見を出し体を動かすと大変頼もしく思え、私自身も大変勉強になりました。最後に本例会にご協力頂きました株式会社ホッピーの社長石渡美奈様を始め社員の皆様、原島会長を始めとしますシニアクラブの先輩方、又、メンバーの皆様、本当にありがとうございます。

和☆拡大交流委員会 副委員長 洪川潤

## 8月例会

災害図上訓練

本年度の卒業生が行う最後の例会として災害図上訓練(DIG)を8月7日に実施しました。

8月の夏休みという時節柄、一般参加者の親子を対象に「住むまちを知る」をテーマに進めて行きましたが、一般参加者が



少なく、今後DIGを広めていく上で大変課題を残す結果となりました。しかし、会場をお借りした布田



小学校の教員の方々などからDIGを取り入れたいということや資料を保管して下さい、少しでもDIGを広める礎になれたのかと思います

ソラスト委員会 委員長 中嶋保明

## 9月第1例会

調布青年経済人会議2010

〜想像しよう！調布のB級グルメ〜

9月7日(火)電気通信大学「リサーチ」において、青年経済人会議を開催しました。今年で3年連続となるこの会議は、例年調布市商工会青年部との合同で行われております。



今年「まちおこし」にスポットをあてて事業の組み立てを行いました。なぜなら、NHK連続ドラマ「ゲゲゲの女房」の放送を契機にその舞台である地元調布が注目されつつあり、市内においても「ゲゲゲの鬼太郎」に因んだ商品を展開する商店が増えてきています。しかし、この現状がまちおこしになっているのか疑問を抱いたからです。そこで私達は、数ある切り口の中から、「B級グルメ」というキーワードをきっかけに町おこしを成功に導いた事例に着目し、調布市商工会青年部さんの協力を得て平塚市「しらすポール隊」小山田隊長、大月市「おつけだん」この会「山口会長を調布の地へお呼び致しました。(上記2団体を選定した理由は、商工会青年部の方々が中心となってまちおこしを行っており、営利団体のまちおこしではない点であります。)



第1部ではパネルディスカッションを通じて「なぜまちおこしをしようと思ったのか？」等の質問を投げかけ、率直なお話をして頂き、第2部では参加者によるテーブルディスカッションを行い、調布のB級グルメの可能性について話を頂きました。自分達が住む町、愛する町を一人でも多くの方に知ってもらいたいと行動している方々の話しはとても情熱的で、あつと言つ間に時間が経過してしまいました。今後もまちの経済活性化

化に向け活動を行っている調布市商工会青年部と力を合わせることで、更なる産業経済の活性化に繋がる行動を起こして行きたいと考えます。

総務ネットワーク委員会

委員長 小山晃一郎



## 9月第2例会 臨時総会



9月16日(木) 調布市文化会館たづくり 映像シアターにおいて臨時総会を開催いたしました。次年度理事長をはじめ、次年度理事役員が承認される最高意思決定機関として、委員会メンバーも緊張感を持って望みました。担当委員会 としてリハールを行い、本番に備えたつもりだったのですが、リハール通りにはいかず、細い部分の調整不足により節度に欠ける進行になってしまいました。委員会メンバー一同、改めて準備の大切さを知る機会となりました。今回の反省点をもとに12月の総会に活かして参ります。

総務ネットワーク委員会  
委員長 小山晃一郎



## 2011年度(社)調布青年会議所

### 理事長予定者挨拶

先日、9月16日に開催されました臨時総会にて、2011年度(社)調布青年会議所理事長予定者として承認を受けました原島秀一と申します。

本年、(社)調布青年会議所は、創立40周年という節目を迎えております。私は、この節目の年に在籍するメンバーの一人として、様々な方々との関わりや諸先輩方の想いと行動によって、(社)調布青年会議所が今あることに感謝し、私たちの現在の立ち位置や方向性を再確認し、(社)調布青年会議所が未来永劫に渡り「地域の中で必要とされ続ける存在」でなければならぬと改めて強く感じております。

40周年後の新たな一歩である2011年度をお預かりするに当たり、私が一番大事にしたいと感じていることは、「明るい豊かな社会の創造と、社会をリードするにふさわしい人を多くつくる」という青年会議所の目標(理念)を、メンバー一人ひとりが再認識し共有しながら、その目標に向かって行動し続けるということです。

(社)調布青年会議所の事業目的である「まちづくり事業」「地域経済活性化事業」「青少年健全育成事業」は、いずれも、社会に営む「ひと」を対象として行っています。「指導力(ひとづくり)事業」については、直接は社会に対してのアプローチではないのかもしれませんが、私たちが地域社会から必要とされる人材となるために行っています。

私は、その社会に営む「ひと」(私たちメンバーも含めて)の心をよくすることが、明るい豊かな社会の実現につながり、私たちメンバー一人ひとりの人格を高めることが社会から必要とされる人材につながることであると考えます。その実現に向けて、メンバー一人ひとりの「やさしさあふれる使命感」と「JAYCEEとしての誇り」を確かものとし、2011年度は更なるメンバー相互の絆を深め、「ひとの力」を蓄えながら、その力を「まち・ひと」に対して展開してまいります。

また、2008年12月に完全施行された公益法人制度改革に際し、私たち(社)調布青年会議所は、組織の根幹を真摯に見つめ直す機会を得ております。2011年度は、地域から必要とされる(社)調布青年会議所であり続けるために、制度に

対応するためメンバーの英知と情熱を結集して定款の見直し、各種諸規定の整備など実務的な積み上げを確実に進めてまいります。それと同時に、制度に対するメンバー相互の共通理解を深め、組織の存在意義や理念を再確認し共有する年度とし、次代につなげてまいります。

私は、共通の理念のもと失敗を恐れることなく可能性を信じて行動し続けている(社)調布青年会議所に在籍していることに誇りを感じて

います。その誇りを決して忘れることなく、メンバーと共に歩むこの一年を大事に想い熱く駆け抜けてまいります。皆様の更なるご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2011年度(社)調布青年会議所理事長予定者

原島秀一



## 出向者報告

### 東京ブロック協議会

### 守る未来・都市環境対策委員会

皆様、残暑お見舞い申し上げます。監事の中村と申します。本年度、(社)日本青年会議所関東地区 東京ブロック協議会 守る未来・都市環境対策委員会にて小峯充史君が委員長として頑張っています。自分と加園君も微力ながら委員として出向しています。

先日、6月24日の会員大会において



委員会議業『どこから来たの

この食べ物?親子で買い物エゴゲーム』を開催いたしました。概要は3種類の食事メニューから1つ選んでもらい、そのメニューにあった食材をJCSーパーにて選んでもらい(1つの食材に国内産、外国産が用意しています。もちろん値札もついています)、その後食材の合計金

額と二酸化炭素排出量の合計を出すという事業です。詳しくはブログマイレージについて考えてもらおう事業ですが、参加者の皆さんに普段の買い物について聞いてみると、「子どもの食べ物には国内産、お父さんの場合は安いもの」「野菜は中国産はパス!」なるべく料理して余らない量を買う」など様々でした。

最近では激安スーパー、ネットで買い物など安くなればなるほど、便利になればなるほど二酸化炭素排出が増えることばかりで、社会の仕組みが資源の枯渇に拍車をかけています。なんてね。当委員会は今年行う3つの事業すべて各LOMに還元できる環境プログラムになっています。次回は9月12日 子ども環境会議です。参加人数1000人を目標にがんばって頑張っていますのでよろしくお願いします。

東京ブロック協議会 守る未来・都市環境対策委員会

委員 中村陽一



### 東京ブロック協議会

### アカデミー研修委員会

### やんぴー塾

東京ブロック協議会アカデミー研修委員会に副委員長として出向させていただきます。やんぴー塾長こと山本征博です。

本年度アカデミー研修委員会では「ハートに火をつけて♥徳と義の精神」のスローガンのもと、2月の開校式から10月の閉校式まで年間ストーリーに基づいたそれぞれテーマを持った事業を7つ行っています。私は第3回の全体委員会を担当し「JCを理論と心(ハート)で感じ 今、何をすべきか考えよう」(JCを理解する)というテーマの下、第一部ではJCの目的、使命、価値観について4名の塾長が講師となり講義を行い



ました。私も全体の設営を行いながらJCの目的について講義を行いました。内容について講義してほしい人がいれば生ビール一杯で教えますよ(笑)

第2部では理事長塾と題し、東京プロット内24会員会議理事長の皆様とのテーブルディスカッションを通じ、地域におけるJCの具体的な将来像や可能性を学ぶことで塾生それぞれが行うべきことを考えてもらいました。

た。調布の塾生からも「将来は理事長をやる！」と発表があるほど大変熱い議論が各テーブルにて行われ、塾生の目の輝きからも充実した内容だったと思えます。さらに、会場を居酒屋に移し、居酒屋道場として飲食しながら引き続き第3部理事長塾を行い、より濃い内容の議論を交わすことができました。6時間半という長丁場でしたが、塾生をはじめLOMのメンバーの皆様にもご協力いただき無事におえることができました。ありがとうございました。

アカデミー研修委員会は10月8日(金)に集大成の閉校式を行います。調布からも20名が委員として出席しています。ぜひ彼らの成長した姿を多くのメンバーで祝っていただきたいと思えますので宜しく御願います。最後にいつもかかげながら支えてくれている「し

ぶにいく」こと運営幹事の渋川潤君に心からの感謝を伝えます。「いつも、ありがとうっ！」

やんぴー。塾長こと山本征博です

## サマーコンファレンス2010

7月23日～25日にかけてパシフィコ横浜にて「サマーコンファレンス2010」が開催されました。

本年開催するサマーコンファレンス2010は、開催テーマを「時代を切り拓く！NEXT STAGEへ」私たちの選択から「世界に輝く日本」に向けてと、我々の推進するわが国の輝かしい未来創造のためのあるべき姿を全国へ発信致しました。来場者は9200名あまりのメンバー、そして6000名もの市民の皆様方にご参加頂き、各セミナー・フォーラム、そして各種事業も多くの来場者で賑わっていました。私が担当させて頂いた輝く地域創造委員会による「中小零細企業復活フォーラム」では、第一部：足立直樹氏による基調講演では今まさに企業に必要な新しい経営視点である「生物多様性」への取り組みを発信し、第二部：パネルディスカッションでは、地域から必要とされている企業3社の経営者を迎え具体的な経営戦略、成功モデルをお伝えさせて頂きました。このサマーコンファレンスを未来に向けた輝かしい人づくり、地域づくり、国家づくりを考える機会とし、共に自らがそれぞれの地域を照らす光明となりえることをメンバー同士共有を致しました。是非、サマコンのようなJCの色々な機会、場面を「活用ください。



その先には新しい自分自身が待っていますから。

公益社団法人日本青年会議所

地域のデザイン創造グループ輝く地域創造委員会

委員長 新國政和



# 俺の自慢

俺の自慢⑤

## ソルトルアーフィッシング

あなたと私のまち委員会 安藤貴弘君



総務ネットワーク委員会では、9月号のネタとしては夏 ↓ 夏と言えば海 ↓ 海といえばサーフィン ↓ ん？待てよ、サーフィンはこの間もポイクラブを掲載したばかりだよ…釣りで良ければ僕が取材に行くけど？ ↓ はい、OKということでは、今回は、あなたと私のまち委員会副委員長をされている安藤君に釣り（シーバスフィッシング）の取材を申し込みました。

(注) シーバスとはスズキのことを指します。

8月17日(火)17:30 安藤君のマラソン仲間である主代(ぬしろ)夫妻の親友が経営する横浜市は東神奈川のボートクラブ「D-marina」へ向



かうため調布を出発した。今回、取材に同行してくれたのは、過去に釣り経験のある新國君、梶原君の二人である。

二人とも過去にバスフィッシングを経験しており、ルアー釣りには慣れ親しんでいる。第三京浜から首都高速を乗り継ぎ、東神奈川インター出口までおよそ40分〜50分、もう着いたの？ って言う感じで到着。

早速、「D-marina」の事務所へ入る。まだ誰も着いていない。この時間を利用して船長の齋藤さんに状況を確認する。

と第一声

「あんまり良くないよ。」

『がーん…』

僕も真夏にシーバスって聞いたことが無い。ましては、連日の記録的な猛暑でほとんどの動物がやる気ゼロの状態。結構キビシイ状況が予想されますね。なんて用意をしながら話をしていると、安藤君と主代夫妻が到着した。そして、挨拶を済ませてボートに乗り込んだ。(皆さん良い方々です。)

一般的に横浜のシーバス釣りのポイントは横浜港、ベイブリッジ、京浜運河等の工業地帯に大きな船が荷物の積み降ろしを行うバスや橋脚等のストラクチャーを狙うのが基本であり、釣りのスタイルはそのストラクチャーに身を隠すシーバスに向けてルアーをガンガン投げて釣っていくのである。



19:00 ボートドックから運河を抜け、真夜中の横浜港をエンジン全開で走っていく。海から観るコスモワールドの観覧車やベイブリッジの夜景は本当に綺麗です。移動中も楽しめますよ！夜景を楽しみながら第1ポイント、ベイブリッジの橋脚周りに到着。「どうぞ始めて下さい。」の合図でルアーを次々と投げる。シーバスは1投目に食ってることが非常に多く、人よりも先に良いポイントへルアー

を投げるのが釣果を上げる秘訣なのだ。

「魚は浮いているのかな？沈んでいるのかな？このルアーの方が美味しそうかな？」などシーバスの身になって、色々想像しながら自分なりの答えを探るのが楽しかったりもする。

手を換え、品を換え、色々試すが第1ポイントではノーフィッシュ。第2ポイント少し沖に出たバースを攻める。

橋脚が複雑に入り組んだいかにも釣れそうなポイントだ。それぞれ黙々とルアーを投げていると、

「かかった!!!」

と梶原君。船中初の魚だけに、皆緊張した面持ちで梶原君のやりとりを見守る。船長がタモに入れてようやくホッと一息。50cm位のコンディションの良い魚を手中に収めた。(おめでとついでいませ。)



1匹釣れたことで、皆のテンションがグッと上がった。しかしなかなか後が続かない。

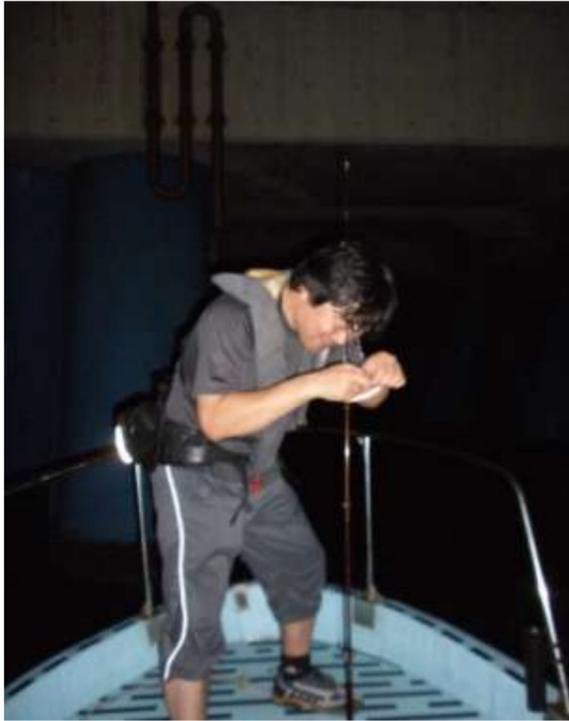
第3第4ポイントと釣れそうなポイントだがなかなか釣れない。このままではまずい…。の空気が船内に漂い始めた。安藤君の取材に来ているのだから安藤君に最低1匹は釣ってもらいたいのだ。21:00 船長から「あと1時間位で終わりです。」の声が…。

安藤君からは「どうしてですかね？」とつぶやきの声が多く聞かれる様になってきた。取材班としても励まし・期待・プレッシャー回避の意味から「次のポイントではお願いしますよ」としか言いようがない。そして、いつの間にか主代夫妻も釣りを止め、安藤君を見守るようになっていた。

第5ポイントに到着、なんとシーバスが小魚を追いかけてポイルしている。これは直ぐにルアーを投げるしかない。  
……汗。

何何何何？

安藤君、竿の先端に糸が絡まってルアーが投げられない。



新國君が直ぐにカバーするが食ってこない……。(ヤバイ)  
21:50 何とか釣らせたい船長はとんでもない一言を「もう仕方ない、取っておきのポイントに今から行きます。」凄い！安藤君を気づかすのサプライズ。釣堀の様な場所を紹介してくれるのか？そして湾奥の秘密ベースに

到着。「1投目が大事ですから慎重に。」と船長の声が聞こえたか聞こえないか……  
焦る新國君が思い切りキャスト。「カン、カン」と金属音が……。

『ぬお〜〜』

1投目で橋脚のロープを釣っている。(大汗)



大事なポイントで涙のお手つきお休み状態。(笑)「チクシヨウ」を連呼する新國君。(ルアーは回収しました)  
22:00 時間は経過していますが、釣ったら終わりのサドンデス状態へ……。その後もポイントを色々周りましたが、残念ながら終了。(涙)

最初に掲載した安藤君の写真は、梶原君が釣った魚で撮影をしました。(保険)本当はこのような写真が撮れる予定だったのに……。(残念)

今回の釣果はあまり良くありませんでしたが、皆さん口々に「面白かった」を連発していました。安藤君良かったですね。正直釣れなくても楽しめますよ。安藤君、新國君、梶原君の集中力と探究心には恐れ入りました。また、楽しく一緒にいきたいですね。皆さんと一緒にどうですか？この件に関するお問合せは

総務ネットワーク委員会  
小山まで

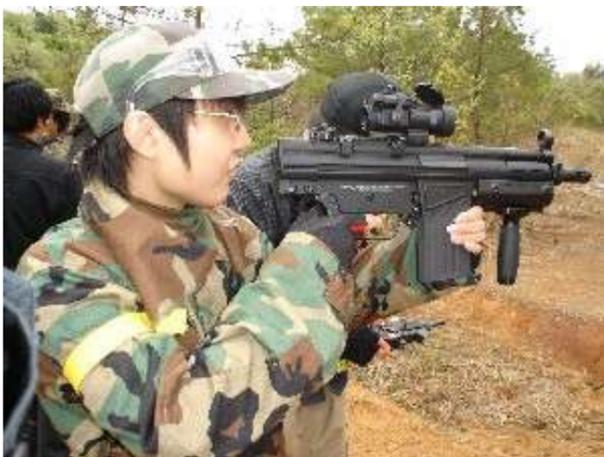


俺の自慢⑥

サバイバルゲーム

和☆拡大交流委員会 大塚和哉君

今回の俺の自慢は2010年度新入会員、大塚さんです。大塚さんがはまっているのは、サバイバルゲームです。最近では芸能人でも趣味としてやられている方が多いみたいでメディアでもとりあげられ、専門雑誌なども出版されています。とはいってもサバイバルゲームは、マイナーで競技人口も一般的に多いとはいえません。なぜサバイバルゲームをやり始めたのか？ きっかけは、工務店を営んでいる大塚さんが、表参道で現場を請け負った時に、施主の方が現場に携わった人達で何か皆で楽しめることを一緒に始めようという一言でスタートしました。サバイバルゲームは、日本発祥のゲームで日本国内において実銃の所持が厳しく規制されていた結果、実銃を模した玩具であるソフトエアガンが多数製造販売されていたこと



とが、サバイバルゲームを生み出されたと考えられています。ゲームの概要は、敵味方に分かれてお互いを撃ち合い、弾に当たったら失格となるのが基本的なルールとなる。エアソフトガンとはいえ弾が当たれば怪我をするので必要最低限の保護具の着用が義務づけられている。

サバイバルゲームのフィールドもいろいろあり市街戦、密林地帯、ベトナム、砂漠、山などがあり映画などと同じような臨場感をあじわえる。最大の魅力は、ゲームがスタートしたときの

静けさにあり、少しでも音を立てれば相手に自分が見つかってしまう緊張感、これは日常では経験できないものである。一見、個人プレーの要素が強いイメージですが実は奥が深く、通常2〜3人の部隊編成で行動をし、いろいろな連携プレーがある。一人のプレイヤーが固になり敵を引き付けている間に他の仲間が敵の居場所を確認して狙撃をするなど実戦と変わらない動きが必要とされ、大塚さんのチームでも教本として24(ジャックバウアー)やスワットを見て勉強していると熱くサバイバルゲームの魅力力を語ってくれました。最近では、仕事やJC活動と多忙な日々のためサバイバルゲームに参加できないといっていました。調整がつけばこれからも参戦していくとのこと。

この件に関するお問合せは

総務ネットワーク委員会 中島まで



2010年度新入会員紹介



#538 滝柳 伸央 たきやなぎのぶお 32歳 AB型  
勤務先・株式会社 深光園

編集後記

(社)調布青年会議所メンバー及びシニアクラブの諸先輩方、最後まであすの調布をお読みいただきありがとうございます。今年もあつという間に一年の後期に入ってしまった。表紙の写真を見て頂きお気持ちの通り、(社)調布青年会議所はいま入会3年未達の多くが主力組となり次年度に向け試行錯誤している状況です。私もその一人として諸先輩方に築き上げて頂いた「積極的な変化の創造」「前向きな変化の創造」を合言葉に日々邁進していく所存です。

また今年のご存知の通り(社)調布青年会議所設立40周年です。さまざまな件で諸先輩方にお世話になっている事に感謝申し上げます。今後尚一層のご支援ご協力を賜り頂きたいと思っております。

総務ネットワーク委員会 榎本陽介

あすの調布 2010年度 9月号

発行 社団法人調布青年会議所 〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘1-5-9 電話・ファックス042(485)9630

編集 総務ネットワーク委員会 委員長 小山晃一郎・副委員長 和田勝幸・運営幹事 堀内信宏・会計幹事 榎本陽介  
委員 栗原廣貴・齋藤喜兆・佐藤美和・佐藤優・住友宏・中島茂雄・村澤健太